

# 興行分析 10月度レポート

◆————◆  
< 2011年11月14日 >

興収 20 億円超を見込むヒット作が 3 本出るも、  
前年比は依然 2 割減のまま推移

## 興行分析 10月度レポート

### 【首都圏劇場の前年同月比は興収81.1%、動員82.0%】

10月の興行は、東京ロードショー劇場78館の集計では、総動員数が64万2258人、総興収が8億8015万円となり、前年同月（81館）比で動員数82.0%、興収81.1%。「猿の惑星：創世記（ジェネシス）」や「三銃士～」など最終20億円超を見込む洋画大作や、フジテレビが総力を挙げて大プロモーションを実施した「ステキな金縛り」なども登場したが、他の新作が目標との乖離が著しく、市場全体の伸長を押しとどめた。

### 【月前半は、「猿の惑星～」「ワイルド・スピード～」が市場を牽引】

10月は初週の週末が1日（土）で「映画の日」とあり、「ワイルド・スピード MEGA MAX」（東宝東和）、「DOG X POLICE 純白の絆」（東宝）、「はやぶさ／HAYABUSA」（FOX）の3作品が、300スクリーン以上の全国ロードショーとして市場に投入された。まず、412スクリーンで公開された「ワイルド・スピード～」は初日2日間で動員18万5558人、興収2億1691万円の好スタート。01年公開の1作目から10年の時を掛けてじわじわとファンを拡大し、1作目、2作目が興収10億円未満、3作目、4作目が約10億円、そして5作目となる本作が15億円を見込むシリーズ最大のヒットへ。これにはパッケージソフト市場、特にレンタルで視聴者を増やしてきた背景もある。月間レンタルランキングの順位では、1作目から7位→4位→4位→4位と安定した実績で推移。こうした圧倒的な総視聴者数に支えられ、本作のウリの「シリーズ過去作の主要メンバー再登場」により劇場動員数を伸ばしたと言えるだろう。

一方、314スクリーンで公開された「DOG X POLICE～」は、初日2日間で動員13万4150人、興収1億4938万円のスタートで、最終8億円前後を見込む。また、やはり314スクリーン公開の「はやぶさ～」は、初日2日間で動員9万5351人、興収1億280万円と、「DOG X POLICE～」の7掛けのスタート。前者は、主演の市原隼人がテレビドラマ『ランナウェイ～愛する君のために』（10月27日～TBS）でも硬派な内容で熱演をするも視聴率は振るわず。「DOG X POLICE～」は日本テレビが製作と局が違うこともあり、相乗効果をあげることができなかった。また、後者は、この後さらに2作が公開される“小惑星探査機はやぶさ”をテーマにした1本目の映画だけに、後に公開となる2作にも少なからず影響を及ぼすだろう。

2週目に登場した「猿の惑星～」（FOX）は、7日（金）の先行から10日（月）の祝日までの4日間で、動員58万5948人、興収7億2818万円と絶好のスタート。洋画に勢いのあった01年公開のシリーズ前作（45億円）には遠く及ばないが、3週連続の週末ランキング1位を経て、20億後半まで伸びそうな勢いだ。同じく2週目には、「ツレがうつになりまして。」（東映）も222スクリーンで公開。8日（土）～10日（月）の3日間で動員14万8314人、興収1億9334万円を上げた。ベストセラー・コミックの原作に、『篤姫』の夫婦役で好感度の高かった宮崎あおい、堺雅人の再共演と観客にとってのフックが多く、10億円を目指す興行となっている。東映は「探偵はBARにいる」（最終12～13億円見込み）に続く10億円前後のヒットと、いい流れができつつある。また、映像化が続く東野圭吾原作映画としてメディア露出も多かった「夜明けの街で」（角川映画）も同日公開。こちらは148スクリーンと抑えた公開規模だが、宣伝露出の量ほどには集客が伸びず、最終2億前半といったところか。

3週目には、初の3D時代劇「一命」（松竹）が登場。2D版も同時公開のため460とスクリーン

数は多く見えるが、単純に1劇場で両バージョンを上映と考えれば館数では半分（洋画の吹替・字幕と同様）。結果は、初日2日間で動員7万2858人、興収8702万円というかなり苦しいスタートだ。前年に公開された同じく三池崇史監督の時代劇「十三人の刺客」（東宝）が、312スクリーンで初日2日間の動員18万9000人、興収2億3000万円（最終16億円）とあり、本作はドラマ色が強いとは言え、その差は歴然。最終的には5億円程度が見込まれている。

#### 【「ステキな金縛り」「三銃士～」が最終週に期待に違わぬ絶好のスタート】

ほか、3週目から5週目にかけて、「キャプテン・アメリカ／ザ・ファースト・アベンジャー」「カウボーイ&エイリアン」（共にパラマウント）、「ミッション：8ミニッツ」（ディズニー）などの洋画のジャンルムービーが公開。「キャプテン～」が369スクリーン／初日3日間動員7万7965人、興収1億1504万円、「カウボーイ～」が231スクリーン／初日2日間動員11万4543人、興収1億4042万円、「ミッション～」が272スクリーン／初日3日間動員約9万人、興収約1億円となり、大ヒットとは言えないが、それぞれに堅い興行を見せている。

そして、5週目に「ステキな金縛り」（東宝）と「三銃士／王妃の首飾りとダ・ヴィンチの飛行船」（ギャガ）が登場。ともに目標の大きい作品で、前者は427スクリーン、初日2日間で動員39万102人、興収5億334万円、後者は721スクリーン、初日2日間で動員25万6588人、興収3億7330万円とそれぞれに期待に違わぬ絶好のスタートを切った。「～金縛り」は、東宝の劇映画（アニメを除く）では、「SP 革命篇」（3月12日）以来となる30億超えが狙える状況。また、「三銃士～」も20億超が射程圏内で、配給元のギャガとしては「英国王のスピーチ」に続き今年2本目の大ヒット作となる。ともに興行界全体にとって久しぶりの明るい話題となった。

11月の興行は、この10月最終週公開のヒット作の実績が積み重なり、加えて、前作が興収22億5000万円の「カイジ2～人生奪回ゲーム～」（東宝）や、テレビドラマで人気を博した嵐の大野智主演の「映画 怪物くん」（東宝）、ブラピ来日で話題を呼んだ「マネーボール」（ソニー）などの話題作がどこまで興収を伸ばせるか。今年もあと2ヵ月となるなかで、前年比2割減の基調を少しでも回復できるよう期待したい。